

平成27年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について【学校版】

津山市立秀実小学校

教育目標(めざす児童生徒像)

心豊かに たくましく 自ら高める 子どもの育成  
 進んで学ぶ子  
 思いやりのある子  
 元気な子  
 ふるさとを愛する子

今年度の指導の重点

確かな学力と、自ら考え自己表現する力を育てる。  
 一人ひとりの良さを認め合い、支え合い、高め合う集団づくりを進める。  
 健康安全に関心を持ち、心身ともにたくましく生きる力を育てる。  
 ふるさとの自然や人々を愛する心と態度を育てる。  
 礼儀(あいさつ・言葉づかい)を大切に発表力を伸ばしていく。

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)

【学力状況調査の結果】

全国(小6)

全ての教科において、全体的に県平均、全国平均よりかなり高い。  
 国語Aの「学習指導要領の領域等」の「書くこと」については、全国平均を大きく上回っている。国語Bは、ほぼ全ての分類・区分において、県平均・全国平均よりかなり高い。  
 算数Aについても、ほぼ全ての分類・区分で全国平均よりかなり高く、特に数量関係が高い。算数Bでも、ほぼ全ての分類・区分で全国平均をかなり上回った。評価の観点では、「数学的な考え方」が全国平均よりかなり高い。  
 理科ではB区分の「生命」と「観察・実験の技能」が、県・全国平均をやや下回った。

県(中1)

どの教科も、全体的に県平均をかなり上回っており、下位層がない。また、無解答についても、昨年度同様非常に少ない。  
 国語ではH26に岡山県の課題になっていた「複数の条件を付した記述を求める設問」において、県平均を大きく上回った。読書に親しむ習慣が定着しつつあると考えられる。  
 社会についても「活用」「思考・判断・表現」が県平均を大きく上回った。  
 社会では、「資料活用」の能力が、理科では「観察・実験の技能」が県平均と同程度あるいはやや下回っていた。

【学習状況調査の結果】

全国(小6)

昼休みや放課後、学校が休みの日に図書室や図書館を利用する割合は、全国平均、県平均を大きく上回っている。学校に行くのはとても楽しいと答えた子ども、全国平均、県平均を大きく上回っている。(「どちらかと言えば楽しい」も合わせると100%の児童が楽しいと答えている。)  
 「自分にはよいところがあると思う」の設問では、「そう思う。どちらかと言えばそう思う。」と答えた児童は9割以上となり、低かった昨年度に比べ、自己肯定感の高い子どもが大変増えた。また、将来の夢や目標についても、持っている児童が9割以上と圧倒的に高かった。  
 テレビ等の視聴時間については、4時間以上と答えた児童はなく、昨年度に比べ視聴時間は短くなっている。  
 家庭学習とあいさつについては、県平均並みである。

県(中1)

昨年度に引き続き、地域の行事に参加していると答えた児童は、「どちらかといえばあてはまる。」と答えた子どもを合わせると約85%と高く、地域の中で育っていると言える。  
 昨年度同様、毎日読書をする子どもが多く、図書室や図書館の利用頻度も高い。  
 昨年度より自己肯定感の低い子どもが増えた。能力的には高い子どもが多いが、「自分にはよいところがある。」の設問で、「1あてはまる」と答えた子はわずか7.7%にとどまった。

成果と課題

中1と小6では、児童が異なるが、校内研修で自分なりに課題を捉え解き方を考える(一人学び)やお互いの考えを出し合い、自分の考えを修正したり、深め合ったり高め合ったりする(仲間学び)を学習の中に取り入れて進めている。このような学びにより、自分なりに考え、答えを導き出そうとする児童が増え、無解答が少なくなっていると考えられる。  
 学習規律が身につく、落ち着いた環境で学習に取り組むことができている、基礎学力が定着している児童が多い。課題を途中で投げ出すことな(最後まで解こうとする意欲や姿勢が育っている。  
 読書の習慣、落ち着いた取り組み習慣は身につけている。今後も、県平均との比較で考えるより、児童一人一人の課題を再度明確にし、個に応じた支援を引き続き行うことが大切と言える。

課題に対応した改善方法

計画的に反復練習を行い、コアになる知識及び技能の定着を図る。  
 提示した条件を満たすように、自分の言葉でまとめをさせる。  
 自分の考えや感想が言えるようにいろいろな場を設定する。  
 TV・ゲームの視聴時間が長い子どもほど学習の定着がよくない。その為、中学校、PTAと協力してノーマディア等の取り組みを継続し、保護者対象の講演会を計画するなど更に意識付けを図る。  
 さくら文庫(学校推薦図書)読破に取り組み、様々なジャンルの本に親しませる。  
 個別に明らかになった課題を保護者にも伝え、家庭と協力して取り組む。  
 朝学習の時間や家庭学習を利用して、「算数問題データベース」に取り組む。

取組の検証方法及び検証時期

毎日ドリルやプリントを宿題に出し、提出できているかチェックし指導する。  
 学習のまとめを行う際、提示された条件を満たすようにノートに書くことができているかチェックし指導する。  
 PTAと協力してノーマディアの取り組みを中学校の定期考査に合わせ行う。実施状況を把握し、担任が保護者に連絡を取るなどして、カードの提出率100%をめざす。  
 さくら文庫(学校推薦図書)をしっかり活用させる。(読んだら表にシールを貼る。)  
 学びの定期便を毎月活用する。活用したことを県に報告する。  
 縦割り集団を活用した「秀実学習フェスティバル」を学期二回以上行い、多様な内容について楽しく学ぶ機会を提供する。

平成28年度津山市達成目標に対する具体的な目標(数値目標等)

ドリルやプリントの提出率、8割以上を今後も維持していく。  
 条件を満たしたまとめ、ノートやシートに書くことを、学年末までに8割以上とし、それ以降も維持していく。  
 ノーマディアの取り組みとしてチャレンジカードを使って取り組み、提出率をPTAと協力し、全学年とも100%を目指す。  
 目標冊数読破を、学年末までに、ほぼ100%達成を目指す。  
 全校で活用率100%を維持する。  
 内容を工夫し、今後も、より充実させていく。